【令和５年度　授業改善推進プラン】

板橋区立　赤塚第一　中学校

【 国 語 】

■生徒の状況	・学習へ取り組む意欲や姿勢はおおむね満足できる状況である。 ・定期考査の結果から、語彙（心情語）の獲得が低いことや文の正確な読み取りができていないことが見て取れ、小学校での基礎的領域の学力の定着にも影響が見られる。 ・特に学習意欲をもてない生徒は、「漢字の読み・書き」への苦手意識が作文・その他の言語活動に波及していることが顕著である。
■指導についての課題	・国語に苦手意識をもつ生徒への「漢字の読み・書き」や「語彙力」などの基礎領域を定着させる。 ・作文・短作文に数多く取り組むことで獲得した語彙を生かし、表現力を身につけさせる。 ・協働学習を導入し、相手にわかりやすく伝える力（発信）と相手の考えを正しく理解する力（受信）をつけ、互いに交流する力を向上させる。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・３年生は朝学習の時間を利用して漢字や語句の反復学習を行い、基礎学力の定着を図る。 ・１、２年生は朝読書の時間を通して読書を励行し、読書に親しむ態度を育てるとともに語彙力を身に付けさせる。 ・作文やスピーチ、グループ活動等、タブレット活用を並行しながら言語活動を取り入れ、自分の考えを正確に伝え、情報や相手の話を正しく受け取る機会を多く設ける。 ・夏季休業等を利用し、補充教室で基礎学力の定着と共にタブレットの基本的な技能向上を図る。

【 社 会 】

■生徒の状況	・全体的に明るく、素直で、授業に取り組む姿勢もおおむね良い状況である。 ・多くの生徒が教科に対する興味・関心が高いが、分野によって学習意欲に温度差が見受けられる。
■指導についての課題	・教科に対する意欲・関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせ、知識・考え方・技能の定着につなげていく必要がある。 ・探求心を高め、問題解決力を身に付けさせる。 ・協同的な活動を取り入れ、共に学ぶ姿勢をもたせる。 ・資料（史料）・図表の読み取り、資料活用の技能を身に付けさせる。 ・自分の意見を書いて発表し、思考を深め、かつ表現する力も伸ばす必要がある。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・授業の雰囲気づくりを大切にし、本時の授業のめあてを明確に伝え、見通しをもたせる。 ・ＩＣＴ機器などを活用し、調べ、まとめ、さらに発表する機会を設ける。 ・話し合いや相談などの活動を通して共に学ぶ機会を設ける。 ・授業のまとめの部分では、学習の振り返りのための時間をしっかりと確保し、基本的な知識の定着をめざす。 ・適切なタイミングで小テストやまとめのプリントを実施する。 ・資料（史料）・図表を読み取る学習の回数を増やす。 ・地域の資料や名所などを取り上げ、地域から学ぶ姿勢を身に付ける。

【 数 学 】

■生徒の状況	・学年が上がる毎に苦手意識のある生徒も基礎学力がついてきている。 ・小学校の内容の定着が不十分な生徒は授業に向かう姿勢が良くない。 ・難解な問題に対して周りと協力して解決に取り組もうとする姿勢がある。
■指導についての課題	・個別指導が必要な生徒への補充。 ・ICTを活用した視覚的理解に努めた工夫の充実。 ・進度に合わせた適切な課題の提示。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・今後もタブレットを活用した授業を継続して行い、更に視覚的にわかりやすい教材の工夫をする。 ・学んだ知識を思考力、判断力、表現力を使って解く場面を増やしていく。 ・生徒の自由な進度に合わせた課題を適宜用意していく。 ・さまざまな習熟度の生徒が交流し、自らの実力以上の問題を解決することができる授業を展開していく。

【 理 科 】

■生徒の状況	・興味関心をもって授業に向かう姿勢がある。 ・前向きに学習に取り組もうとする生徒が多い。 ・どこに問題があるのかを見つける力が不十分である。 ・実験結果を予想し、それを検証すべく実験に取り組み、結果から考察した新たな概念を身に付けるというサイクルを通し､周囲とのコミュニケーションや自分の考えを深めることができる生徒も出てきている。
■指導についての課題	・日常の現象や具体物をイメージさせ、それらがどのような科学的法則に則っているかを理解させること。 ・新たな課題を考えるときには、以前の学習で得た概念を用いて考えさせること。 ・自分の考えをもてない生徒にもとうとする姿勢を身に付けさせること。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・授業は、基本的な事柄を押さえることに重点をおいている。生徒にとって身近な現象や具体物を示しながら実験の手順を説明するなど、イメージをつくりやすくする。 ・学習した内容と現実の科学技術との関連、応用を紹介し学習の広がりを感じさせる。 ・仮説→検討→実験→考察のサイクルを行うことで、引き続き思考力、表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・ＩＣＴを効果的に取り入れつつ、生徒が主体的に活動できる授業を工夫する。

【 音 楽 】

■生徒の状況	・全体的に積極的に取り組んでいる。 ・パート練習では主体的に取り組める生徒と集中力が続かない生徒がいる。 ・鑑賞では学年が進むにつれて深い聞き取りが見られ文章で表せるようになってきている。 ・歌詞や音を聞いて覚えて歌唱しようとしている。
■指導についての課題	・学習・練習のねらいに対しての理解度に差がある。 ・鑑賞ワークシートの学年レベルに合った内容の工夫。 ・楽譜から曲の内容を読み取ることが難しい場面が見受けられる。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・意欲的に課題に取り組めるように、焦点化したねらいの提示、成果の発表・励まし等を行う。 ・パート練習での意見交換、教え合いを大切にする。 ・鑑賞では興味を引く映像教材等の充実を図り、取り組みやすいワークシートを工夫する。 ・楽典（音楽の基礎的な理論）にも力を入れ、実際に演奏する際の読譜力を伸ばし、曲作りにつなげる。

【 美 術 】

■生徒の状況	・題材に興味をもち、意欲的に制作する生徒が多い。 ・発想を広げたり、より良い物を作ろうと粘り強く取り組んだりすることが苦手な生徒が多く、作業として進めてしまう生徒がいる。
■指導についての課題	・題材の目標やポイントをしっかりと把握させ、手順を考えながら見通しをもって作業を進められるようにすること。 ・生徒同士の気づきや共働を通して発想を広げ、創意工夫をより追求させること。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・生徒にとって身近な題材を設定し、調べ学習などを通して発想を広げやすいようにする。 ・授業の導入時に制作の回数と進行状況を確認し、動画や資料を提示して、制作の具体的なイメージをもたせ、計画的な作業ができるようにする。 ・調べたことやアイディアスケッチの交流、制作途中の交流など、生徒同士で発想の広げ方や表現方法を発見させ、制作の意欲や表現の幅を広げさせる。

【保健体育】

■生徒の状況	・運動好きな生徒が多いが、全学年で体力・運動能力が低い生徒が多い。学習に真面目に取り組むことができるが、知識・技能、思考・判断は、全体的に課題がある。 ・体力は全国平均を上回っている種目が少なく、低い。このような状況から、技能習得に個人差がある。
■指導についての課題	・自ら課題を見つけ、意欲的に運動できる生徒を育成するための指導・タブレット使用の工夫。 ・知識・技能、思考・判断の定着。 ・総合的な体力の向上に向けての取組み。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・学習の基本である授業規律を身に付けさせ、スムーズに授業を行うことができるようにする。 ・積極的にペアワークを行い、生徒が相互に課題を見つけあい、解決し合うようにする。 ・オリエンテーションを充実させ、授業の見通しをもてるようにする。授業ごとにねらいを示し目的や目標を明確にする。授業の最後にまとめを行い、振り返る。 ・基本的な知識の指導を行い、学習カードの内容や協働学習等、授業形態を工夫し、思考力・判断力を高める。 ・各学年の新体力テストの結果と単元の特性に応じて準備運動、補強運動の工夫をし、継続的に行うことで体力向上を図る。 ・タブレットを有効に活用する。

【 技 術・家 庭 】

■生徒の状況	・タブレットの操作が身に付いてきている。 ・実習や実験などに興味をもって取り組む生徒が多い。 ・授業に集中できない生徒がいる。 ・宿題に対して主体的に取り組めていない。 ・ノートの活用が十分でない。
■指導についての課題	・作業進度の差が出たときの対応の仕方について。 ・作業手順や、作業のポイントの指導の仕方。 ・感染症対策を考慮した協働学習の導入の仕方。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・今後もタブレットを活用した授業を継続して行い、更に視覚的にわかりやすい教材の工夫をする。 ・学んだ知識や技術と生活との関連を理解させることで、自分なりの工夫や改善ができるようにする。 ・ものづくりを通して、創造する力を養う。 ・実用性の高い教材を扱うことで、意欲的に物作りの活動をさせる。 ・思考力、判断力、表現力を育むために、考える時間や自分の考えを書く時間を適切に設ける。

【 英 語 】

■生徒の状況	・積極的に英語の言語活動に取り組む生徒が多い。 ・生徒の中には苦手意識があって積極的になれない生徒もいる。
■指導についての課題	・習熟度に応じた４技能５領域の指導の工夫。 ・中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）に準拠したスピーキング指導と活動。 ・視覚的効果などを用いて生徒たちの興味や関心を引き出す指導の工夫。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・「話すこと」の能力を伸ばす授業を実施する。 ・ICTを活用し生徒の興味を引き出し、楽しく力がつく授業を展開する。 ・授業の始めに学習の『ねらい』を提示し、授業の終わりに『振り返り』を行う。 ・一斉指導の中でも、個別指導の時間や機会をつくり、一人ひとりの定着度を確認し、自分で課題を解決しようとする自立学習を支援する。

【　総合的な学習の時間　】

■生徒の状況	・与えられた役割や課題については積極的に取り組める。 ・自ら考えて課題を発見したり、課題を克服するための方法を考えたりすることが苦手である。 ・場面や状況に応じたコミュニケーション能力が十分でない。
■指導についての課題	・課題を発見する能力を身に付けさせる。 ・課題解決のための方法を選択する力を身に付けさせる。 ・コミュニケーション能力を身に付けさせる。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・諸活動の意味や目的を理解させ、自分の将来と照らし合わせて考えさせる。 ・班活動を活発に行い、班員同士の意見交換を活発にさせる。 ・様々な人々との交流を通して、生徒一人一人に社会性を身に付けさせる。

〇その他（言語活動の充実等）

・図書室の充実を図り、生徒の利用を促進させる。
・朝学習、朝読書活動を充実させ、学習習慣を身に付け、また、心を豊かにし読解力を高める。